（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立戸塚第三小学校

■　学校の共通目標

授業づくり	重点	分かる授業を展開し、基礎・基本の力を高める。また、児童が主体的に学習に取り組むことができるようねらいを明確にし、問題解決型の学習を行い、自分の考えを伝え合う場を設定したり、個に応じた支援の工夫をしたりしながら、一人一人の活用力（思考力・判断力・表現力）を高める指導を行う。	中間評価	児童アンケートでは、設問「授業が分かりやすいか」に対し肯定的評価が 94.3%と 4%増加し、分かる授業の展開は一定の効果を挙げていると考えられる。「考えたことを発表しているか」については 77.4%と他項目に対して低いため、考えを伝えたくなるような授業展開、考える時間の確保、考えを伝え合う場の設定、考えるための資料や教具の工夫等をしていく必要がある。また、児童の進んで伝えようとする意欲が高まるよう、個に応じた支援の工夫をする必要もある。	最終評価＋	学校評価（年度末）の「戸三小の先生は、分かりやすい授業を行っている。」について、保護者は肯定的評価 96%、児童アンケートは 93%で引き続き高い評価となっている。新宿区学力定着度調査の結果は、国語については、目標値に対してどの学年も同値または上回った。観点別では、昨年度と比較し読む力と言語力に伸びが見られた。書く力に課題が見られる学年があり高めていく必要がある。算数については、学年によって傾向が異なるが、前年と比較してどの学年も知識や理解力に伸びが見られた。短答式、選択式と比較し記述式の解答の正答率が低く、思考力とともに、説明する力を高めていく必要がある。 基礎・基本の定着が十分でない部分について、朝学習、放課後学習の活用や、フォローアップシート等を用いた個に応じた習熟のための取り組みを進めていく。また、活用力を高める指導については、問題解決型の学習の計画的実施や個々の定着度に応じた指導等、実態により対応した手だてを考えていく必要がある。
環境づくり		児童の学習への興味・関心を喚起する学ぶ環境を整え、落ち着いて学習に向かうことのできる学習スタンダードの徹底と自らの学びの過程が分かり学習に活用できるノート指導の充実を図る。		学校公開の保護者や地域の方の感想には、校内の美化や掲示物によい評価が多数寄せられた。校内や学習時の服装も含め、スタンダードの徹底を引き続き図っていく。ノート指導については、個人差に応じた指導も含め充実を図る必要がある。		学習スタンダードについては、各学級、専科授業を中心に指導の徹底を図った。学習準備、姿勢等については引き続き指導を徹底していく必要があるため「戸三小スタンダード（学習規律）として次年度教育計画に載せ、年間を通して指導を徹底できるよう改善を図った。ノート指導については、基本的な約束を守ってきちんとノートをとろうとする姿勢が身に付いてきている。今後は、教科領域の特性もふまえながら、さらに指導の充実を図ることができるよう、重点項目を設定していく。

■　学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組み（10 月）	最終評価（２月）
1	国語	学 8 割の児童が平仮名や片仮名を正しく書くことができている。 学叙述から登場人物の気持ちを想像し、表現することができるようになっている。	・片仮名で書く言葉を平仮名で書くなど、片仮名と平仮名の区別ができていない。 ・「へ・は・を」などの助詞や促音などの表記が正しく表せない児童も数名いる。 ・話を聞く際に、最後まで人の話を聞いたり、大切な部分を聞き落とさずに聞くことが難しい児童もいる。	・授業の中で言葉見付けの時間を設け、語彙を増やすと共に片仮名で表すものと、平仮名で表すものの区別ができるようにする。 ・国語の授業だけでなく、他の教科や活動の中で文章を書く機会を増やし、助詞などの使い方の理解を図る。 ・学習スタンダードである「話の聞き方『あいうえお』」を教室に掲示し、話をする際に振り返ることができるようにする。また、相手の目を見て話を聞けている児童や最後まで聞くことができている児童を賞賛し、広めていくようにする。	学授業の中で言葉見付けを行ったり、家庭学習に「あのねノート」を加え、文章を書く機会を増やしたりした結果、多くの児童が　片仮名で書く言葉と平仮名で書く言葉の区別がつくようになり、「へ・は・を」などの助詞や促音などの表記を正しく表すことができるようになってきている。しかし、まだ、２割程度の児童が、正しく片仮名を書くことが難しかったり促音や助詞を正しく使うことができていなかったりする。そのため、今後も文章を書く活動や言葉探しを継続的に行っていく。 学学習スタンダードである「話の聞き方『あいうえお』」を教室に掲示し、その都度姿勢や聞き方を振り返りながら学習を進めたり、全校朝会等で最後まで目を見て話を聞いている児童を賞賛したりした結果、話を最後まで聞こうとする児童が増えた。しかし、大切な部分を聞き落としてしまう児童もまだ多いため、継続して指導していく必要がある。短い言葉で指示をするなど、集中して話を聞くことができるように今後も指導していく。また、大切な部分を視覚的にとらえられるような支援をしていく。 学物語文の学習では、文章全体の叙述を通して登場人物の気持ちを想像し、吹き出しで気持ちを書き表したり、音読の際に登場人物の気持ちになりきって表現したりすることのできる児童が増えた。
	算数	学繰り上がりのないたし算や、繰り下がりのないひき算の基本計算は良くできている。 学繰り上がりのあるたし算においても、１０のかたまりを意識した解き方を考える児童も数名いる。 学解き方や考えを進んで発表する児童も多い。	・文章問題を読み、問題の意味（加法・減法の区別）を理解することができない児童がいる。 ・繰り上がりや繰り下がりのない計算で指を使ったり、半具体物を使ったりしないと計算ができない児童が数名いる。	・問題の場面を半具体物を使って表すことで、意味を捉えることができるようにする。また、問題文に「増えると」や「残りは」などのヒントとなる言葉を全体で確認し、図と言葉と式を関連付け理解を図るようにする。 ・半具体物を使って練習を何度も行うようにする。また、導入時や授業以外の場面でもフラッシュカードによる計算問題を出したり、１０までの構成をゲーム等を用いたりしながら定着を図る。	学問題の題意を全体で確認したり、半具体物や図を使って操作しながら考えるようにしたりした結果、文章問題を読み、問題の意味（加法・減法の区別）を理解し、演算決定することができるようになってきた。 学繰り上がりや繰り下がりのない計算の答えを速く出すことができるようになった。 学位取りを意識して２位数+１位数の計算の仕方を考えたり、説明したりすることができる児童が増えた。 学時計の読み方については、長針の読み方がすぐに出てこない児童もいるため、生活の中で時間を読むようにしたり、時計に分数を書いて時刻を読むことができるようにしたりするなど、工夫して指導していく。

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組み（４月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学 丁寧に文字を書く習慣が身に付いている。1年生の漢字の書き取りでは、8割の児童が９０点以上をとることができた。 学「間違わず読み」や「高速読み」など、音読に楽しく挑戦している。	・学習する漢字が多くなり、定着することが難しい。 ・文章の内容を正しく読み取ることに難しさを感じる児童が数名いる。	・朝学習の時間や、授業の中で漢字タイムを設け、繰り返し学習し、定着を図る。 ・繰り返し読むだけでなく、動作化したり絵を描いたりして、音読を工夫する。	・プリントなどで繰り返し練習することで、学習内容が定着するようになっている。 ・音楽科の学習と連携して、「お手紙」を歌にして表現することで、物語に親しむことができた。 ・さらに、学習内容に関連した本を置くなど、様々な本に触れられるように、学級図書を充実させる。	学漢字の書き取りテストは、何度も練習を繰り返すことで、８割の児童が１００点を取ることができた。 学読書にすすんで取り組む児童が多くなった。読み取りの評価テストでは、読み取りを苦手にしていた児童が１００点を取るなど、文章を読む力が付いた。 調読む能力は、全国平均を上回り、標準スコアが 53.7 であった。クラス全体として、文章を読み取る力が付いてきた。 調話を聞き取る能力が低かった。普段の授業から集中して話を聞く姿勢を作る。今後は、聞いたことをメモしたり、文章にまとめたりするなどの取組みで聞く力を高めていく。

	算数	学 たし算、ひき算の基本計算は、よくできている。 学 筆算やかけ算などを学習している児童も数名いる。 学 考えたことや分かったことを意欲的に発表している。	・学習の理解に遅れる児童がおり、学習の進度に差がでる。 ・授業中に発言する児童が偏ってしまう。	・児童には、進度に応じたプリントを用意し、発展的な問題に取り組ませる。遅れている児童には、補助学習プリントを用意して対応する。 ・既習事項のまとめを、掲示するなど、学習の経過が分かるような教室環境を作る。 ・自力解決の時間を十分に取り、ノートに自分の考えを書いて、友達の意見と比べさせるなど、児童が発言できる工夫を行う。	・学習の理解に遅れる児童も、ＴＴ教員が対応することで、内容を理解することができている。 ・学習内容を定着させるため、朝学習の時間などで繰り返し復習する。 ・三角形や四角形のまとめ、かけ算九九表等、学習内容に応じた掲示物を教室内に掲示し、既習事項を確認したり、暗唱のために活用したりしたことは、効果的であったので継続していく。 ・自分の意見をノートに書くことはできるが、全体で発表する児童が限られているので、ペアでの学習を取り入れて友達に発表する機会を増やし、意見を言うことや発表することに対して慣れるとともに自信をもたせていく。	学学習プリントを種類別に複数用意するなど、児童の能力に合わせた授業を組み立て、個別に対応することができた。 調トータル的には全国平均を超え、数学的な考えや技能などはある程度身に付いているといえる。しかし、かさの単位の関係を理解し大小を判断したり、身近にあるもののかさを推察して適切な単位を使ったりすることができていない。また、数を正しく数直線に表したり、正しく読み取ったりする力を付ける力も必要である。フォローアップシートなどを活用し、一人一人の課題に対応していく。 学自分の考えをノートに書かせ、小グループ（またはペア）で発表させることで、自信をもって発表する児童が増えた。
3	国語	調物語や説明文を読み取る力は目標値を上回った。 調話を聞き取ったり質問したりする力や文章を書く力は目標値より低い。特に文章を書く力については、指定された長さで文を書くことや自分の考えが明確になるように具体的に書くことの数値が目標値を大きく下回っている。 学授業中書いたノートやワークシートを見ると、分かりやすく書いたり、順序立てて書いたりすることが苦手な児童がいる。	・丁寧に書こうとすることや発言の作法など学習規律が徹底できていない。 話の要旨をまとめながら聞くことに課題がある。 順序立てたり根拠をはっきりさせたりするなど、書くことに課題がある。	・姿勢や鉛筆の持ち方、意見発表の仕方を繰り返し指導する。 ・朝会時の校長の話の中心を意識して聞くことや文章の中心となる語や文を見付けることなどを通して、考えながら聞いたり読んだりする力を付ける。 ・文の書き方の指導を繰り返し行うとともに、授業や生活の中で、結論から話すことや理由を付けて意見を述べることなどを指導する。	・話の要旨をまとめながら聞く習慣を付けるために、朝会での校長講話を中心に話の聞き方を記述させた。徐々に要点の把握の仕方がうまくなった。 ・国語の授業に限らず、社会や理科でも理由を付けて意見を述べたり書いたりする指導をした。自分なりの理由や根拠をもつことができるようになってきたが、内容として適切でないことを挙げている場合がまだある。内容の振り返りを大切にしながら取組みを続けていく。また、話法について例を掲示して正しく話すよう指導する。	学学習スタンダードを活用し重点的に取り組んだので、姿勢や鉛筆の持ち方、下敷きを使用するなどの学習規律が身に付いてきた。 学話の中心や順番を意識して聞いたり、文章の中心となる言葉や文を見付けたりすることは徐々に身に付いてきたが、話を聞いて要旨をまとめる活動や順序を意識して文章を書く活動を継続していく。 調昨年度と比較し、言語についての知識・理解と話す・聞くことに大きな伸びが見られた。しかし、書くことについては課題として残った。的確な表現になるように文章を書くための基礎的基本的な力をプリントなどで付けるとともに、文章を書きたくなるようなテーマで学習の流れを考えていく等の取組みを行う必要がある。
	算数	調かけ算は目標値を上回ったが、文章問題を表した図の理解や時刻の間の時間を求める力などが下回っている。特に長さ・かさについては目標値より大きく下回っている。 学意欲的に学習に取り組んでいるが、考え方を説明したり根拠を明確にしたりすることが不十分な児童がいる。	・進んで考えをもったり、分かりやすく発表したりすることに課題がある。 ・たし算ひき算・長さ・かさの概念など基礎的な技能の定着に課題がある。 ・既習事項を活用した自力で課題解決するために、考えたことを表現することに課題がある。	・課題を明確にして学習に取り組ませる。 ・具体物や図などを使ったり、教具を操作したりするなどして、考えをもたせるようにする。 ・基礎的な知識・技能は、朝学習や家庭学習で繰り返し取り組ませ、定着を図る。 ・互いの考えを交流させたり、学び合いをさせたりする。	・課題を明確にして授業を行い、具体物に触れさせたり、繰り返し学習させたりしたことで、学習内容の定着が図れ、その単元の評価のためのワークテストでは平均８～９割とれるようになってきた。 ・児童同士での考えを交流して、学び合う時間を設定した。児童なりの言葉で説明するので理解が深まる場面が見られた。さらに、授業の中での振り返りを生かして、学習内容が定着するよう指導する。	学百ます計算を定期的に行った結果、かけ算九九が定着した。 学計算問題や解き方の見通しをもてる問題には取り組むが、考えて解き方を見付ける問題や経験したことがない問題では挑戦をあきらめる傾向がある。 調図形は目標値を上回ったが、量と測定、数学的な考え方には課題が残った。数学的な考え方については、なぜその計算になるのか根拠を明確にしたり、問題解決型の学習を計画的に行ったりする等の取組みを行う必要がある。
4	国語	調　「読むこと」の正答率は目標値を大きく上回っている。特に説明文の読み取りで良い結果を出している。また、話し合いの内容の聞き取りや、漢字の読みも上回った。 調　「書くこと」は目標値を下回り、問題別では作文で段落のつながりを考えて書くことが課題である。 学　提出物は、漢字の単純な書き取りには確実に取り組んでいるが、熟語を使った例文作りや原稿用紙で作文を書くことについては、内容的・量的に不十分さが見られる。	・例文作りや作文において、文章を考え出す力とそれを書く力に課題がある。 ・上記課題や、既習事項を活用して自分の考えなどを発信したり発表したりすることが苦手である。 ・漢字や熟語を正しく理解して音読することが難しい児童がいる。結果として内容の読み取りが不十分である。	・短作文でも主語・述語・目的語の入った文章を書く練習をさせる。 ・作文指導は、内容についての事前メモや文章構成、段落の書き方などを添削しながら身に付けさせる。 ・読みが難しい児童には、読んでいる箇所を指で指しながら繰り返し読む練習を行う。毎日音読に取り組む。 ・ポイントや事例などを短冊で掲示し、可視化する。それを活用して課題に取り組めるようにする。	・短作文の練習や添削によって、多くの児童が間違えずに書けるようになってきたので、今後どの教科でも自分の考えや学習感想などの文章を書く時間を取る。 ・語彙や表現を豊かにするため、多様な語彙を使った例文づくりの練習を行っている。 ・物語文や説明文はしっかり読み取れている。 ・音読の取組みで楽しく暗唱する児童が増えた一方、家庭での取組みが習慣化されておらず、読解力向上につながっていない児童もいるため、継続的に指導する。また、発表時には、理由を付けて考えを述べるよう指導する。 ・ポイント等の可視化は効果があるため継続する。 ・漢字のミニテストを改定し、読み・書きを覚えたり間違いを振り返ったりする機会を取っている。	調　全体を通して結果は概ね良好である。読み取りや話す・聞くこと、書くことなどで目標値を達成した。これまでの取組みが結果につながっている。 調　言語に関することは、目標を大きく下回っており、豊かな語彙力を付けるための取組みや読書を継続する必要がある。 学　文章の内容を読み取ったり、考えたことを文章にまとめたりする活動が、スムーズに行えるようになった。今後は、深い思考のプロセスを経た、より豊かな言葉での表現ができるようにしていく。そのために、友達との対話を通じて自分の考えが深まったり変容したりしたことを文章に書く取組みを行う。

	算数	調　総合的な得点では目標値と横ばいである。しかし、「量と測定」の領域では目標値を少し下回っており、長さや時刻と時間などを正確に読み取ることに課題があった。 調　計算では、かけ算わり算は解けているものの、たし算引き算で正答率が低い。計算の基礎が身に付いていないためと思われる。 学　日常の学習では、計算や作図など課題に取り組めるが、基本的な繰り上がりや繰り下がりの間違いが目立つ。	・繰り上がり繰り下がりを正しく、四則計算を行うことに課題がある。 ・グラフや目盛りを正しく読み取り、単位などを間違えないようにすることに課題がある。 ・計算やグラフ作成、作図といった既習事項を活用して自力解決することに努力を要する。	・継続的に計算の練習を行い、間違えた問題を見直してもう一度解くことを習慣付ける。 ・１００マス計算など、速く正確に計算する力を養う練習をし、目盛は注意深く読むことや単位など、細かい箇所まで意識をもたせるよう指導する。 ・計算のきまりや道具の使い方を図示したり色を変えたりして理解を促す。	・細部まで意識をもって取り組むことについては、定着していない児童もいるため、問題文で注意してよむべきポイントを示し、誤答をそのままにせず必ず見直しをして間違いを直すようにしている。 ・同じ問題に何度も繰り返し取り組ませ、時間の余裕がある児童には補充問題を自主的すすめることができるよう授業の決まりを追加した。 ・100 マス計算の継続により基礎的な計算力や集中力が身に付いてきた。取組みを継続する。 ・計算のきまりや用具の使い方は理解できている。	調　総合的な得点は目標値と同値で、概ね良好であった。しかし、概数、折れ線グラフ、面積など「量と測定」や図形の領域では目標値を少し下回っており、得意・不得意の分野については変化がない。また、日常の学習では単位ミスなどがあるため、丁寧な見直しが必要である。 学　日常の学習では、授業で学んだ時には解ける問題が、時間を経過するとやり方を忘れてしまって解けなくなることが多い。繰り返しドリルやまとめの問題を解かせて、復習する習慣を付けていく必要がある。
5	国語	調「読むこと」は目標値より上回っているが、「書くこと」は目標値と横ばいであった。 調「言葉の学習」に文の構成や指示語の使い方などについて、理解の不十分さが見られる。 学提出物を見ると、既習の漢字の忘れや目的や必要に応じて、具合的な内容を文章化することに課題が見られる。	・第４学年までの配当漢字の読み書きについて課題がある。特に既習の漢字をひらがなで表すことがある。 ・登場人物の心情や段落間の情景の変化などの読み取りや自分の考えを書くことが苦手である。	・朝学習で漢字の復習に取り組んだり、児童が書いた文の添削の際に指導したりすることで、向上を図っていく。 ・登場人物を自分と置き換えたり、ポイントとなる言葉や文を提示したりするなど、視覚的に分かるようにヒントを与えて継続的に指導していく。	・児童が書いたノートなどを見ると、既習漢字が書けていない児童がまだいる。スモールステップでの繰り返し練習、定期的な漢字の小テスト、文中での誤字の確認を行い、１つでも多くの漢字を日常の中で使えるようにする。また、家庭と連携しながら、宿題以外にも家庭学習の中に漢字学習を取り入れられるようにする。 ・長い物語文になると、情景や登場人物の心情をなかなか理解できない児童がいる。教科書のポイントとなる部分に線で引かせたり、情景や心情の変化が分かるような場面ごとのワークシートを作成したり主人公の日記形式への書きかえをさせたりすることで理解できるようにする。	学漢字プリントの宿題や家庭学習、授業の中での繰り返し学習によって、４月頃より既習漢字の定着している児童が増えた。また、物語文では、場面に分けて、登場人物の心情や情景を理解し、それぞれ場面ごとに比べることで、心情や情景の変化に気付く児童が増えた。 調説明文の内容を読み取る正答率が、目標値を大きく上回った。作文や書く活動が、目標値より下回っていることから、今後、主語と述語の関係やつなぎ言葉を使った文の書き方などについて、継続して指導していく必要がある。
	算数	調全体的に正答率が目標値より下回っている。特に「わり算」の３桁÷１桁の余り空位ありの計算や「折れ線グラフ」を正しく読み取ることに課題があった。 調「数と計算」の領域は昨年度の校内平均正答率より上回っている。 学学習状況を見ると、四則演算の計算の仕方や前年度までに習う公式など基本的な学習内容の定着していない児童が見られる。	・問題の内容理解や既習事項を用いての自力解決に課題がある。 ・四則計算の間違いが多く、既習事項が十分に定着していない。	・問題の意味を読み取るためのヒントや既習事項からつながりの授業展開を考えて行っていく。また、既習内容を教室内に掲示する。 ・テストやプリントなどの見直しの徹底を図る。また、計算問題や既習事項を授業だけでなく、宿題や家庭学習を通して継続的に取り組んでいく。	・新しい学習の中で、既習事項を活用しながら課題に取り組むことのできる児童が増えてきた。しかし、数人は、問題の意味を捉えることができていないため、既習内容の掲示だけでなく、復習プリントを作成し取り組むようにする。また、個別指導計画を立て授業の中で重点指導をしたり、休み時間や放課後を活用したりして定着を図る。 ・計算の得手、不得手にかかわらず、ちょっとした計算ミスが見られる。宿題や家庭学習の取組みの他に、児童の課題の応じた復習プリントを作成し、課題（不得手な部分）の改善ができるようにする。	学授業の導入で、既習事項の復習を取り入れたことで、事前に問題の意味を捉え、課題に対してスムーズに取り組むことができるようになった。しかし、その時に理解しても定着していないという現状がある。繰り返し学習や家庭学習など、引き続き、取り組んでいく必要がある。 学児童へ繰り返しの声掛けをしたことで、テストや学習課題をきちんと見直しする児童が増え、ミスが減ってきた。 調国語に比べて算数は全体的に正答率が低くなっている。基礎基本の定着が図れるよう児童一人一人の課題を把握し、個に応じた復習問題への取組みや繰り返しの学習を徹底して行っていく。また、授業以外にも放課後学習を実施したり、家庭と連携して復習できる環境を整えたりしていく必要がある。
6	国語	調「聞くこと・話すこと」の正答率が、学年が設定した目標値を上回った。特に話し合いの内容を聞き取る設問は大きく上回った。 調「書くこと」の正答率が、学年が設定した目標値を下回った。段落構成を考えて文章を書くことや、自分の意見とその理由を区別して書くことに課題が見られた。 学提出物を見ると、漢字の読み書き、敬語の活用のしかた、「･･･たり、～たり」などの基本的な文法事項など、言語事項に課題が見られる。	・段落間のつながりを意識した文章を書くことや、自分の意見とその根拠を書き分けられて文章にすることが十分にできていない。 ・当該学年だけでなく、前学年までの漢字の読み書きを含めた言語事項が定着していない	・接続詞・敬語など、児童が活用できていない言語事項を重点的に指導する。また、段落間のつながりを意識して書けるよう、教科書にも載っている文章構成表を活用し、文章構成を意識して書く力が定着するようにする。 ・既習の漢字を使って書く習慣が身に付くよう、書写や文章の中で漢字が使えるような課題を多く提示する。戸三小漢字検定の機会に合わせて、既習の漢字の書き取りの練習を多く取る。家庭学習の課題にも多めに出す。	・「書く」単元では、ブレーンストーミングを行わせ、教科書にも載っている「考えを助ける図表」を書かせる実践を行い、書く内容の構想を練る手助けとなるようにした。段落間のつながり、段落相互の関係をはっきりさせた文章を書かせる手だてとして役立った。 ・習った漢字をなるべく多く使って短文を書く課題を、朝学習や家庭学習の中に入れて行っているところだが、前学年までの漢字の読み書きを含めた言語事項が定着したとはまだいえない。１回目に行った戸三小漢字検定の問題に出てきた前学年までの漢字を練習するなどして、正しい書き取り・正しい書き順などが定着するようにする。	調「書くこと」の正答率が、学年が設定した目標値を上回るようになった。特に、自分の意見とその理由を区別して書くことについては、目標値を 10 ポイント以上上回った。改善のための取組みに一定の成果がみられたといえる。 調・学　当該学年の学習漢字は目標値に達していたが、前学年の配当漢字の書き取りについては目標値を下回った。戸三小漢字検定の結果も、前学年までの漢字が対象となる級を受けた児童ほど合格できていない。家庭の協力を得ながら、4, 5 年生の配当漢字を中心に復習をしていく必要がある。

	算数	調第５学年算数の正答率は、学級が設定した目標値を下回った。観点別正答率で見ると、数量や図形についての知識・理解が下回っており、既習の学習内容の定着には課題がみられる。 学児童の学習活動を見ると、自力解決の際に自分の考えがノートに書けず、見通しが立たない児童が目立つ。前年度の学習内容が定着していない単元がある。	・算数の問題解決能力の育成を図る。 ・前学年の学習内容を復習しながら、新しい学習内容の既習事項として活用できるようにする力を育てる。 ・これまでに学習した内容で類似した箇所を見付け、自力解決する力を育てる。	・単元に関連した既習事項の掲示に力を入れる。また、児童の考え方を中心に掲示し、学級全体に考え方が広まるようにする。 ・自力解決の前に解決のためのヒントを児童から引き出し、解決計画が立てられるようにする。	・既習事項の定着が十分とはいえないが、多様な解決方法で自力解決できる児童が多くなり、考え方を比較・検討する力が身に付きつつある。 ・単位量あたりの大きさなど、いくつかの単元では前学年までの既習事項が定着した単元もみられる。しかし、量の単位のしくみが混同していることが影響し、縮尺の学習や速さの換算（秒速→分速→時速）など、定着が学級全体で不十分な単元が発生してしまった。教科書に載っている「ふりかえりコーナー」をこまめに振り返らせたり、掲示するなど視覚化したりすることで、既習事項の定着を図る。	調第６学年で学習した内容のほぼ全ての問題について、学級が設定した目標値を下回った。問題解決型の授業を通して、既習事項を活用する力の育成を図ったが、十分な成果が得られなかった。フォローアップシートなどを活用しながら、小学校算数の復習を可能な限り行っていく。 学教科書巻末の「算数のまとめ」などを活用し、知識・理解面の定着を図った。多くの児童が丁寧に図や式で表現しながら、最後まで粘り強く取り組むことができた。既習事項の定着が十分でない児童については、個別指導の機会を１単位時間のなかで多くもち、既習事項の定着につなげていく。
音楽	学　意欲的に取り組むことができる児童が多いが、主体的に表現することが苦手な児童もいる。また、演奏技能にも個人差がみられ、個別指導が必要な児童もいる。	自信をもって表現活動をしたり、音楽や友達の発表を聴いて感じたことを伝えたりする力が課題である。 また、演奏技能に個人差がみられ、個別指導が必要な児童もいる。	・学習のめあてを明確に示し、スモールステップで課題を設定したり、能力別に教材を用意したりし、達成感を味わえるように指導を工夫することで、主体的に表現活動に取り組めるようにしていく。 ・言語活動を充実させるため、掲示物や、学習カードを活用していく。 ・個別指導や少人数指導の機会を設け、演奏技能の向上を図る。	・スモールステップを意識し、器楽の教材では、楽譜をフレーズごとに切って練習したり、運指のミニテストをこまめに行ったりすることで、基本的な技能が定着しつつある。歌唱や鑑賞の領域でも取り入れていく。 ・鑑賞の学習では、掲示や学習カードを工夫することで、音楽的な語彙が増え効果が見られた学年もある。さらに、器楽や歌唱のペア学習の際に、適した言葉で教え合いができるよう、校内研究の「見合い・教え合い」の掲示を参考に、音楽用の掲示を作成する。 ・個別指導と全体指導が多かったため、課題に応じたグループ学習を取り入れて学び合いの場をつくり、児童同士で高め合うことができるようにしていく。	学学習のめあてを明確に提示し、スモールステップで課題を出したり、こまめに評価を行ったりすることに努めた。それにより、自信をもって表現活動に取り組む児童が増えた。また、発表の際には、聴く視点を分かりやすく示したことで、聴く側の児童も主体的に取り組むことができた。領域によって学習意欲に差がみられるので、さらに教材研究を深め、意欲的に取り組むことができるよう指導の工夫をしていく。 学言語活動を充実させるために、鑑賞領域において学習カードや板書の工夫を行い、気付いたことや感じたことを、整理してまとめるようにした。それにより、発言したり、記述したりすることができる児童が増えた。鑑賞以外の領域でも言語活動を充実させると共に、全学年に共通する言葉と発達段階に応じた言葉を使い分ける必要があると感じたため、提示物を工夫し、さらに言語活動が充実するよう努める。 学全学年でペア学習を多く取り入れ、児童同士で見合ったり、教え合ったりする機会を増やした。また机間指導も細かく行うよう心掛け、個別指導も充実するようにした。それにより、基本的な演奏技能の習得率が向上した。しかし、個別指導でも習得にかかる時間に個人差があるので、学年の実態に応じてポイントを絞った指導をし、基礎的な演奏技能の確実な定着を図る。
図工	学　全般的には意欲的に活動に取り組む児童が多いが、活動に受動的な児童や粘り強く丁寧に仕上げることが難しい児童が見られる児童が複数いる。	・主体的に活動に取り組むことが苦手な児童が複数いる。 ・はじめは作品に意欲的に取り組んでも、途中で飽きてしまったり、あきらめてしまったりして、最後まで自己表現ができない児童がいる。 ・自他の良さを認め協力して活動することが苦手な児童も見受けられる。	・より一層活動に意欲をもち、主体的な自己表現につながるような題材を用意するとともに、実物例示が明確になるICTを効果的に活用する。 ・自他の良さを認め合うのが苦手な児童には自信がもてるような声掛けを増やし、作品の鑑賞活動を通して認め合える活動を積極的に取り入れる。個人制作だけでなくグループで協力して制作する活動も取り入れていく。	・主体的な自己表現ができるような題材の提示をしたり、材料を選ばせたりするなどの工夫をしたことにより、児童の意欲が高まったり意欲が持続したりするなどの効果がみられている。取組みを継続し、引き続き主体性を伸ばす指導していく。 ・実物や手順や内容を紹介する際、実物投影機を使用するよう努めた。また、児童が調べたいことを即時に自分で調べる際にPCを有効活用できた。 ・お互いの作品を見合う時間を出来るだけ設定するよう努めているが、作品の進度の個人差が大きいので出来ないこともあった。見合う時間を設定できない場合はカードを書くなどしていく。グループ活動は１～４年生では実施できたので、５・６年生でも計画的に設定して実施する。	学主体的に自己表現できるような題材の提示と、理解しやすいシンプルな説明を心がけてきた。それにより児童の意欲が高まった。また、学年の実態に応じて、単元活動の時間を短くしたり逆に長く設定したりして、活動の意欲が保てるよう努めてきた。まだ成果は個人によるところが大きいが、次年度もより一層工夫を凝らし、主体的に活動出来る児童を育む。 学手順や道具の使い方や、作品の紹介等に実物投影機を活用した。また、個人で調べたい物がある際に主に高学年でPCをよく活用した。PCで確認することで、安心して作品作りに取り組める児童が見られた。更に全学年での有効な使い方を考え、実践していきたい。 学お互いの作品を見合ったり、展示したりする機会を設けたりグループ活動を取り入れたりしてきたので、昨年より児童同士で交流する姿が見られたが、人数の少ない学年などではうまく活動出来ない場合もあった。学年をまたいだ活動なども取り入れ、かかわり合いながらの学習形態を設定していきたい。

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　※分量は 2 ページ以上となってもよい。